

令和5年度 気比中学校スクールプラン

敦賀市立気比中学校（生徒数350名、学級数15）

学校教育目標

心豊かでたくましく、幸せな未来を切り拓く生徒の育成

- 自啓：自律をめざし、自分と向き合い考え、目標をもってすすんで学ぶ
- 敬愛：ふるさとを愛し、相手を敬い、互いに助け合い、協力する
- 清楚：美しい心もち、優しく笑顔で、前向きに自分を高める
- 剛健：正しく生き、くじけず、たくましい心身をきたえる

個性を知り、自ら可能性を「引き出す」、
新たにつくり出すことを「楽しむ」

自己肯定感が高く、困難を乗り越える強さ、
しなやかさ

重点目標・具体的取組

向き合い・考える力【自啓】

- 主体的に学習に向き合い(個別最適な学び)、
ともに学び合う(協働的な学び)学習活動の
充実
- 思考力・判断力・表現力の育成

- 生徒が自ら学びの追究方法を判断・選択し、
振り返る(メタ認知)場の設定
 - ・1人1台端末(タブレット)の活用充実
 - ・学習内容に合わせた授業形態の工夫
- 授業と家庭学習のスパイラルなつながり
- 考え・判断し・対話する授業

- ・「授業に主体的に取り組んでいる」と答える生徒 90%
- ・「授業がよくわかる」と答える生徒 85%
- ・「タブレット端末活用の授業公開」100%
(保護者・地域対象)全クラス実施

豊かな人間性【清楚】

- 「自治の力」の育成
(ともにつくる意識、達成感)
- 自他の良さを認め、高め合う生徒の育成
(自己肯定感を高める人づくり)

- 生徒会活動、学級活動における「よりよい集
団・社会」のつくり手となる場の設定
 - ・リーダー、フォロワーの良好な関係づくり
 - ・生徒が自ら考え、行動する場づくり
- 道徳教育・人権教育の充実
 - ・ポジティブ教育を取り入れた活動
- 心を耕す読書活動の推進

- ・「学校が楽しい」と答える生徒 90%
- ・「みんなで何かをするのは楽しい」と答える生徒 90%
- ・道徳の授業公開(保護者・地域対象)100%
全クラス実施
- ・生徒の読書冊数 15冊

健やかな心身【剛健】

- 安全・安心な学校環境づくりの推進
(自助・共助の意識の高揚)
- 明るく健康でたくましい心・からだづくり
の充実

- 心理的安全性の高い集団・環境づくりの推進
 - ・教育相談(カウンセリング)の充実
(SCの全生徒カウンセリング年2回以上実施)
 - ・いじめ、不登校への組織的な対応
- 家庭・地域との連携によるデジタル・シティ
ズンシップ教育の推進
- 危機管理意識・安全意識の高揚
 - ・安全な自転車運転
 - ・SNSトラブル回避

- ・「相談できる相手がいる」と答える生徒 90%
- ・いじめの解消 100%
- ・新たな不登校数の減少 → 前年度より
増加させない
- ・家庭でのSNS活用ルールの遵守 85%

つながる・かかわる力【敬愛】

- つながり、かかわる「ふるさと学習」「キャ
リア教育」「小中一貫教育」の推進
- 助け合い、協力による「チーム性」の高い
学校づくりの推進

- 校区を生かした「ふるさと学習」「キャリア
教育」の設定
- 小中・中高連携による学びのつながりづくり
- つながりを生かした働き方改革の推進
 - ・PTA活動
 - ・小中・中高連携
 - ・関係機関との連携
 - ・地域人材の活用

- ・校区、異校種間を生かした学習活動 100%
- ・学校HPを閲覧する保護者の割合 50%
(学習活動等の紹介記事掲載→週2回以上)
- ・超過勤務80時間教職員数→年間通しゼロ
- ・平均通勤時刻 18時50分

【保護者・地域の願い】

- ・楽しく充実した学校生活を送ってほしい。
- ・心豊かにたくましく育ててほしい。
- ・「良さ」を生かし、伸ばしてほしい。
- ・いじめがない学校であってほしい。
- ・安全な生活をしてほしい。
(登下校の安全、SNS等の利用)

【ともにつくる学校の姿】

- 生徒・学校・保護者・地域の手による、
「ともにつくる気比中」の実現
- 気比中学校にかかわるすべての人が「幸せ」
になる、「幸せ」をつくる学校の実現

【生徒・学校の実態】

- ・素直で、まわりと協力し、学校行事や興味
のあることに取り組むことができる。
- ・学習での話し合い、教え合いができる。
- ・自己肯定感を高め、新たなことに挑戦する
意欲へつなぐかわりの継続(生徒理解)。
- ・将来のめざす「生き方」と「学び方」の
つながりづくり(継続的なキャリア教育)。

【ともにつくる教師の意識】

- 成長に感動し、共感する(感動)
- 人間として成長する(挑戦・感性)
- 常に周りに感謝する(気づき・感謝)
- 相互の「得意」を生かす(協働)

研究テーマ

自ら考え、伝え合い、学びを深める生徒の育成 ～タブレット端末の効果的な活用を通して～